

教職開発講座 全 有 耳 教授



子どもの発達と親子のメンタルヘルス



キーワード 発達の特性/ 神経発達症/ 養育者支援/ メンタルヘルス

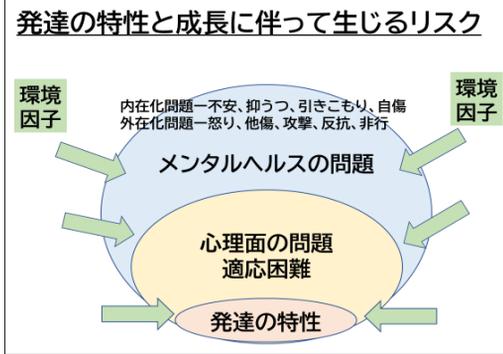
どのような研究をなぜ行っているか

発達の特性を有する子どもを含めすべての子どもが、自分らしさを発揮できる環境整備

近年、社会環境の変化ともあいまって、子どもの発達や心の問題に対する支援ニーズが増加しています。中でも神経発達症（発達障害）に対する社会的な理解が大きく前進し、早期にその特性（以下、「発達の特性」とします）に気づかれる子どもが増加しており、支援ニーズも多様化しています。

私はこれまで、発達の特性や心の問題を有する子どもとその保護者への支援方法及び支援システムに関する研究を行ってきました。具体的には、①乳幼児期の発達のスクリーニングと早期支援の体制、②学齢期のメンタルヘルス対策、③ペアレント・トレーニングをはじめとする養育者支援策に関すること等です。

発達の特性は生まれ持ったものですが、そのことにより発達のプロセスが定型的でなかったり、行動のコントロールが難しい、集団行動が苦手といったこと等から、生活の場面で様々な生きづらさを感じやすくなる結果、二次的に心の不調をきたすリスクが高まりやすくとされています。二次的に生じる問題を予防し、自分らしさを発揮できるためには、まずは発達の特性への理解をすることと、個々にあった環境を提供すること（右図の環境因子を子どもにあったものにしていくこと）がとても重要になります。そのためには養育者をサポートすること、保育及び教育環境の整備（特別支援教育）を科学的な根拠をもとに進めていく必要があります。



研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

子どもが自分らしさを発揮できる環境整備に向けて、まずは専門職の育成が重要です。これまで行ってきたペアレント・トレーニングは、養育者がわが子への理解を深め、育児不安の軽減と自信の回復につながるだけでなく、子ども支援にかかわる専門職のスキル向上にも役立つものです。また、学齢期のメンタルヘルスの問題への予防策として、子どもが長時間過ごす学校における対策の強化が有効であることがわかりました。その際、全ての子どもを対象とするアプローチを行うことで、子どものみでなく教員のメンタルヘルスリテラシーの向上にもつなげることができます。

令和4年度より特別支援教育研究センターでネット・ゲームと離れにくい子どもへの支援プログラムの研究を進めており、子どもへの支援策の充実につなげていければと考えています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・京都府スーパーサポートセンター 専門家チーム委員（2012～）
- ・京都府立南山城支援学校・井出やまぶき支援学校 巡回相談員
- ・奈良市教育委員会 特別支援教育連携会議委員（2021～）
- ・新版K式発達検査研究会（新版K式発達検査の標準化作業等）
- ・自治体等での研修会講師・講演（2021以降の実績）
舞鶴市発達支援リーダー研修会、向日が丘支援学校教職員研修会
奈良県発達障害者支援センター主催研修会、奈良教育大学附属小学校PTA保健部主催講演会 等